

Aichi-Nagoya 2026

2025 年 1 月 28 日（火）

第 20 回アジア競技大会、第 5 回アジアパラ競技大会 選手団宿泊拠点の名古屋港ガーデンふ頭への設置について

愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会（以下「組織委員会」という。）では、第 20 回アジア競技大会（以下「アジア競技大会」という。）、第 5 回アジアパラ競技大会（以下「アジアパラ競技大会」という。）の選手団宿泊拠点の一つを名古屋港ガーデンふ頭に設置する方向で調整を進めてまいります。

1 選手団宿泊拠点の設置方針

- 名古屋市内で実施される競技に参加する選手団を対象に、約 6,000 人規模の宿泊拠点を設置し、選手団本部等の機能を集約して利便性の向上、効率的な運営を図る。

名古屋港 ガーデンふ頭	名古屋港 金城ふ頭
・収容人数：約 2,000 人 ・宿泊施設：移動式宿泊施設 ・設置機能：選手団の宿泊、選手団本部 NOC/NPC サービスセンター 等	・収容人数：約 4,000 人 ・宿泊施設：クルーズ船 - 停泊期間：20 日程度 ・設置機能：同エリアにメインメディア センター、競技会場を設置

※アジアパラ競技大会の宿泊拠点は、ガーデンふ頭（移動式宿泊施設）のみ

2 ガーデンふ頭に設置する宿泊拠点の概要 資料 1、2

- ガーデンふ頭に移動式宿泊施設とともに、既存施設の活用等により、選手団本部や NOC/NPC サービスセンター、トランスポートモール、ダイニングホール、フィットネスジム等の機能を設置する予定。

【移動式宿泊施設の活用】

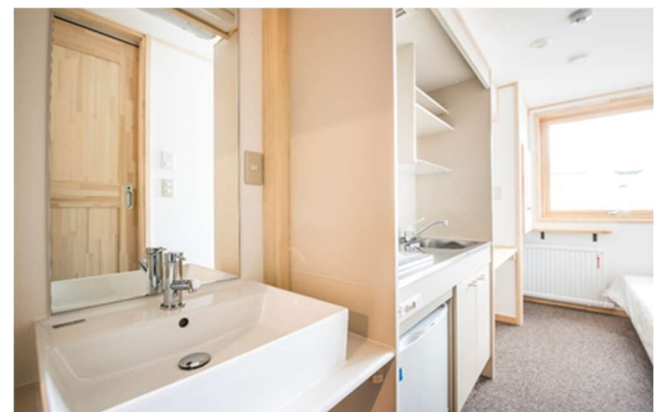
- ・トレーラーや船で容易に移動させることができるコンテナサイズに住宅施設・設備を収めたもので、ホテルや住居等に利用されている。
- ・迅速な設置が可能であり、災害時の応急仮設住宅としても活用されている。



大会のレガシーとして継承・発展

- ・アジア・アジアパラ大会での移動式宿泊施設の活用により、平時はホテル等に、災害時には応急仮設住宅に使用する事前防災の取組促進、防災力向上に貢献
- ・アジアパラ競技大会での使用を通じて、アクセシビリティの高いモデルを開発し、共生社会の実現に貢献

内装イメージ



【本件に関するお問い合わせ】

(公財) 愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会
宿泊課 宿泊企画グループ (発表資料に関すること)

担当：米山、平川

電話：052-951-9463 (直通)

広報メディア課広報グループ (その他大会に関すること)

担当：金井塚、加藤

電話：052-746-9465 (直通)

ウェブサイト：<https://www.aichi-nagoya2026.org/>

<https://www.asianparagames-2026.org/>

宿泊施設の集約

ガーデンふ頭

約 2,000人
移動式宿泊施設

- ・ 日本有数の水族館、飲食施設、公園が集約
- ・ 大会サービス提供のために転用可能な豊富な会議室と既存の施設が存在
- ・ NOCオフィスとNOCサービスセンターをガーデンふ頭エリアに集中



金城ふ頭

約 4,000人
クルーズ船

- ・ 日本最大の自動車貿易港であり、近隣にアリーナや大規模な国際展示場が存在
- ・ MMC（メインメディアセンター）と競技会場が金城ふ頭エリアに集中



国土地理院発行の 1/10000 空中写真を加工